

「全鍍連」 2021年 10月号 理事長のよこがお

埼玉県鍍金工業組合 理事長 伊藤 麻美 (日本電鍍工業(株) 代表取締役)

「やるなら徹底的に」



この度埼玉県鍍金工業組合の理事長に就任いたしました伊藤でございます。

当社は東京で 1956 年（昭和 31 年）に創業しましたがまもなく埼玉県川口市に工場を建てたことから今のさいたま市に移転するまでずっと埼玉県で操業しております。

しかし実際埼玉県鍍金工業組合の一員になったのは創業からしばらく経った 1971 年（昭和 46 年）だということを先日知りました。

良い人材に恵まれ、技術部隊だけでも 50 人前後はいたので、めっき液の開発から分析そして排水処理まで技術的にも技能的にも社内で全て完結できる環境だったようです。

そんなこともあり、大きな声では言えませんが組合活動は行っていなかったようなのです。更になんと 1990 年（平成 2 年）に組合をやめています。

私が代表取締役に就任したのは 2000 年（平成 12 年）ですがあろうことか私は組合の存在すら知りませんでした。

では表面処理に関する情報はどこから得るの？と聞かれれば会員になっている表面技術協会です。

就任してからずっと SYMTEC、表協青年経営技術懇話会に参加させていただいております。

未来趣向の勉強熱心な経営者の集まりでして、今でも国内のみならず海外企業との交流や視察等パワフルに活動しています。

さて、話を組合活動に戻します。

埼玉県鍍金工業組合の存在すら知らなかった私がなぜ今理事長になってしまったのでしょうか？

それは想定外の出来事があったからです。

SYMTEC は業績などの近況報告から抱えている課題など、その場で色々なテーマを議論しながらストレートな意見が言い合える刺激的な仲間たちです。

ある時、仁科工業株式会社の仁科社長（現会長）が埼玉県鍍金工業組合の話をされました。

そして最後に“麻美ちゃんの日本電鍍工業は組合に入っていないからなあ”と言いながらチラッとこちらにアイコンタクトされた

のです。

私もニコツトしながらスルーしたのですが、その後も SYMTEC でお会いする度にさりげないお誘いトークを繰り返されることがありました。

何回かの後、“仁科社長、わかりました！もしも、仁科社長が埼玉県鍍金工業組合の理事長になることがありましたら入会します！”と、皆さんの前で公言したのです。

実は当時の埼玉組合では理事長になりたい方々が数名いらして、もっともなりたがらない方が仁科社長だと聞いていたの
で高を括っていたのです。

ところが、ある方がお亡くなりになり、たしかある会社が廃業したなどで、あれよあれよと言う間に仁科理事長が誕生してしま
ったのです・・・

絵文字で表すと当時の私はこんな感じです (;'▽')

皆様の前で公約した以上、約束は守らなければならないと思い 2010 年（平成 22 年）に日本電鍍工業は組合にカ
ムバックしてしまいました。

その後は黒澤前理事長のもと、6 年 3 期副理事長を務めさせて頂き、現在に至ります。

これからも鍍金・表面処理のニーズは高まります。

ただし、未来に向けて準備している企業だけが生き残れるのです。

歴史のある組織になればなるほど事なかれ主義からのシフトは難しいのかもしれませんが。

業界の明るい未来の為に、変化を楽しみ、チャレンジを恐れず、悪しき習慣や風習は勇気を持って変えていくつもりです。

こんな行き当たりばったりの私が理事長を務める埼玉県鍍金工業組合でございますが

どうぞお目知りおき下さいませ。